

言語発達障害学演習

[演習] 第2学年 後期 必修 2単位

《履修上の留意事項》この演習は3グループに分け、各教員がローテーション形式で同時開講する。

《担当者名》○小林健史 kobaken@hoku-i-ryo-u.ac.jp
橋本竜作 辻村礼央奈

【概要】

「言語発達障害学」「言語発達障害学」「言語発達障害学演習」で学んだ知識が基礎となる。事例に合わせて知能検査、言語検査、学習認知検査の選択と実施を行い、評価のまとめに基づいて言語発達段階に即した指導・訓練・支援を行うための観察眼を養う。

【学修目標】

[一般目標]

言語発達障害児や養育者に対して適切な支援を行うために、各種検査の実施を通じて言語発達障害に関する科学的知識を整理し、評価技術、基本的な支援プログラムの立案能力を身につける。

[行動目標]

1. 各種検査や評価で用いられる用語を理解し、理論的枠組みを説明できる。
2. 各種検査をマニュアルに沿って実施できる。
3. 検査中の反応を適切に解釈できる。
4. 各種検査のプロフィールを作成し、適切に解釈できる。
5. 各種検査のプロフィールから得た解釈に沿って、支援目標を立案できる。
6. 立案した目標に沿った支援プログラムを作成できる。
7. 主体的にグループワークに参加する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	言語検査	PVT-Rの実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
2	言語検査	質問-応答関係検査の実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
3) 10	言語検査	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の実施法と解釈について学ぶ。 学齢版 言語・コミュニケーション発達スケール(LCSA)の実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
11) 16	学習認知検査	KABC- 心理・教育アセスメントバッテリーの実施法と解釈について学ぶ。 読み書き検査について学ぶ。 16回目にPBL課題を発表する。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
17) 20	PBL	検査結果を整理し、問題点の抽出について学ぶ。 ミニOSCEを実施し、医療人として適切な検査技術を習得する。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
21) 24	PBL	抽出した問題点に対する長期目標、短期目標、指導方法の立案について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
25) 28	PBL	立案した指導方法に即した教材の作成について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
29) 30	PBL	PBL発表会を通じて、適切なプレゼンテーション能力を習得する。 複数の発表を聴講することを通じて、様々な症例に対する洞察力を養う。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

評価：単元ごとの確認テスト（30%）、OSCE（20%）、PBL発表（10%）、報告書（40%）

【教科書】

教科書は使用しない。その都度使用を配布する。

【参考書】

深浦順一 他 著 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」 医学書院 2021年
佐竹恒夫 他 著 「言語聴覚士のための言語発達遅滞訓練ガイド」 医学書院 2004年
大伴潔 他 著 「言語・コミュニケーション発達の理解と支援プログラム」 学苑社 2008年
大伴潔 他 著 「特別支援教育における言語・コミュニケーションに困難がある子どもの理解と支援」 学苑社 2011年
大伴潔 他 著 「アセスメントにもとづく学齢期の言語発達支援」 学苑社 2018年
大伴潔 他 著 「言語・コミュニケーション発達の理解と支援：LCスケールを活用したアプローチ」 学苑社 2019年
熊谷恵子 他 著 「長所活用型指導で子どもが変わる Part2」 図書文化社 2000年
藤田和弘 他 著 「長所活用型指導で子どもが変わる」 図書文化社 1998年
熊谷恵子 他 著 「長所活用型指導で子どもが変わる Part3」 図書文化社 2008年
内山千鶴子 他 編 「新 言語聴覚療法シリーズ 言語発達障害」 建帛社 2024年
石坂郁代 編 「最新 言語聴覚学講座 言語発達障害学」 医歯薬出版株式会社 2024年
田中裕美子 編 「レイトトーカーの理解と支援」 学苑社 2023年

【学修の準備】

- ・参考書「新 言語聴覚療法シリーズ 言語発達障害」の検査に関する章などを読み予習しておくこと。（20分）
- ・演習後は資料を精読し、専門用語・観察ポイントを中心に暗記すること。（20分）
- ・演習内容によって使用する教室が変わります。ガイドランスで確認すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2. 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

小林健史（言語聴覚士）
橋本竜作（臨床発達心理士・公認心理師）
辻村礼央奈（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、療育機関等での臨床経験を活かし、言語発達障害の評価法、指導プログラムの立案について講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している